

会員の皆様へ

皆さんからどういう意図でプログラムを決めるか、または、どのように組み立てるかよく聞かれることがあるので、今回は、そのことについて書いてみたいと思います。

プログラムというのは、料理のコースのようなもので、前菜から最後のデザート（アンコール）まで、よく念を入れて考えなければいけません。実際のシェフはどうかわかりませんが、まず、主菜、メインになるもの、これは絶対に弾きたいと思う曲を決めます。それに合わせて、対比、相性、メインの曲を生かす（逆に言えば殺さない）ように考えて、他の曲を決めていきます。料理で言えば、同じ味が続いて舌が疲れるとか、脂っこい料理が続いておなかをもたれたり、胸やけがしないように、また“箸休み”的なものを入れたりとか考えます。今、続けているふらんす plus シリーズは、10回（2012年）で完結の予定なので、こういう大きく長いシリーズの場合は、1回1回考えるのではなく、10回分大雑把にフランスものをどういう順番で弾いていくかを決めて、それと組み合わせる他の作曲家も偏らないよう、いろいろな作曲家が登場するように気を遣います。

作曲家、あるいは曲によって組み合わせを考えやすいものもあれば、難しいものもあります。シューベルトのように水のような無垢な作曲家は、比較的誰とでも相性がいいのですが、例えばスクリャービンのような灰汁あかくのつよい存在感をもった強烈な個性のある作曲家や、フォーレのように一音楽はすばらしいのですが一地味で他の曲の中に埋もれがちになるものは頭を悩ませます。でも、プログラムを考えるのはとても楽しいことです。

第1回の最初の曲が、「これからふらんす plus のシリーズが始まりますよ。」という雰囲気きずなのプーランクのフランス組曲だったので、最終回の最後の曲はシリーズを締めくくるのにふさわしい記念碑的な野心作とも言える大曲で終わりたいと考えています。ちなみに、来年は本国フランスでさえも演奏機会が少ないらしいルッセルを紹介したいと思っています。お楽しみにー。

今回もまたたくさんの方々に聴いていただき、地方のコンサートまで多くの会員の方が追っかけて下さいました。

最後に新しいCDの情報です。作曲者自身がどうしても私に、という強い希望で実現した「三善晃ピアノ作品集」。「音の葉」は、大人になっても夢見る少年の心を失わない三善先生のお人柄がそのまま表れているとてもすてきな曲集で、私が選びました。それ以外は作曲者の選曲です。ぜひお聴き下さい。

皆様、どうぞ今年もよろしく願いいたします。

岡田 博美